

第32回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成29年8月22日（火） 10:00-11:30

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、上杉委員、中須賀委員、
中村委員、松本委員、薬師寺委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、山口参事官、行松参事官、高倉参事官、
佐藤参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課長	谷 広太
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官	山之内 裕哉
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室長	庄崎 未果
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門事業推進部長	佐藤 寿晃
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 イプシロンロケットプロジェクトマネージャ	井元 隆行
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所科学推進部長	佐々木 宏

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 宇宙活動法に基づく技術基準等の検討状況について

資料1に基づき事務局から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○宇宙活動法の基準は、諸外国の例に倣ったものなのか。

●ISO規格、FAA（アメリカ連邦航空局）等も参考として定めた。

○どのような事業者を想定しているか。大学衛星も含まれるか。

●軌道に投入するものについては、すべてを対象としている。本基準は、民間の新規参入者の後押しをするとともに、安全を確保するうえで守るべきルールを示すものである。

(2) イプシロンロケットのH3とのシナジー対応開発の検討状況について

資料2に基づき文部科学省及びJAXAから説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○世界の動向は、1回の打上げで多数の小型衛星を打ち上げる（相乗り）

ようになってきている。ロケットに複数の衛星を搭載するための検討を推進してほしい。これを実現することにより衛星1基あたりの打上げ費用を下げるのが、国際競争力のうえでも必須である。

●革新的衛星プロジェクト等も含めて、取り組んでいく。

○H3やイプシロンの開発を行っている現段階から、さらにその先にどうあるべきかを見据えた研究にも取り組んでほしい。先行して技術を研究していれば、開発や製品化の際のリスクも減らすことができる。

●JAXAとしてもフロントローディングにしっかりと取り組んでいく。

(3) 宇宙科学・探査小委員会の検討状況について

資料3-1及び3-2に基づき文部科学省から、資料3-3に基づき事務局から、国際有人宇宙探査に係る検討状況について説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○第二回国際宇宙探査フォーラム（ISEF2）に向け、我が国が国際協調で貢献できるものとして輸送インフラの構築等が考えられるのではないか。アメリカの方針が見えない状況なので、日本の強い分野を積み上げていくことが重要。

●ご意見を踏まえつつ、我が国が主張できることを検討していく。

○“国際有人宇宙探査”という言葉について、それがどういうものであるかを明確にしていくべき。

○2025年以降のISSの在り方の検討についても、引き続き実施いただきたい。

資料3-4に基づき文部科学省から、宇宙科学分野の人材育成の検討状況について説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○人材育成は非常に重要であるため、具体的な政策として実現するよう、取り組みに期待する。

●前向きに検討していく。

以上